叫んでいいとも！

シリーズ・私の提言

このスペースは、社会や地域への思いを自由に述べて頂けるよう読者の皆さんに開放しています。

深刻な原発被害に衝撃

いわき市で支援に参加　コミュニティ再建こそ

今月の提言者　大野ひろ子さん(58)（磯路）

◆〝四重苦〟の地へ

三・一一大震災後、何も出来ない自分への苛立ちと原発事故の行方に気が休まらない日々でした。五月の連休にやっと被災地を訪れ、少しですがボランティアに参加、被害の実態を垣間見てきました。場所は、北部の一部が福島第一原発から三十キロ圏内に入り、「地震・津波・原発事故・風評被害の四重苦に苦しむ地域」と報じられたいわき市です。

町中は大分落ち着いていましたが、海岸沿いは漁村が壊滅的被害。車道は確保されていましたが、遠くには巨大な瓦礫の山。手付かずの崩れ落ちた家や家具類、工場の残骸、転がった船、潮を被った車両等々の光景が延々と続きました。

◆若者ら捨て身の活動

原発事故直後、ゴーストタウンと化したいわき市。その時捨て身で飛び込んだ若者らが教会を拠点に活動していました。「連休中はボランティア自粛を」などの報道もあった中、「人手はいくらでも必要」と全てのボランティアを受け入れていました。全国各地・世界各国から人手と救援物資と義援金が寄せられ、教会は駐車場から屋上までごった返し、活気に溢れていました。

私達はここで、瓦礫撤去、半壊した家の片付け、救援物資の整理、避難所への炊き出しと足湯サービス等に参加させてもらいました。

◆心のケア訴える牧師

責任者の牧師さんは話されました。「中心的産業であった農業と漁業は津波と原発事故で壊滅的打撃を受けた。原発事故の収束見込みがつかない中では、作付けも塩害除去も水産加工業の再建も何もできない。被災者に寄り添い、きめ細かくスピーディにニーズに応える支援が求められている」。

また農漁業や中小零細業を中心とする産業構造の上に成り立ってきた地域社会にも言及し、「このコミュニティが破壊されたら復興はない。だから何よりコミュニティの再建。人間らしく働き暮らせる町づくり、皆が残りたいと思える魅力ある町づくり、雇用と産業の創出が必要。そして先の見えない道のりだけに、心が折れないよう被災者に寄り沿う心のケアが大切」と。

◆大地を蘇らせる闘い

地域再建や肉親捜しさえ阻み、被災者の願いをズタズタにしている原発事故。六月中旬、福島の農民の声です。「あれ以降、辛い辛い毎日。身を以て原発の恐怖を体験してます。牛乳を牧草地に捨てた日々。飯館村の方々は全財産の牛を売り払って避難しなければならない。無念の極みです。仲間が原発を恨みつつ命を断った。悔しい！」「廃業した農民、新たな土地へ旅立った農民…私は残って大地を蘇らせる闘い、事故責任を追及し原発を廃炉に追い込む闘いを続けます！」。

今では稲藁の汚染から肉牛の出荷停止と事態は更に深刻化しています。

今回の体験を踏まえ、私たち三里塚産直野菜の会（磯路二―三―九、☎六五七二―〇一三〇）では、様々な被災者と直接つながるボランティア活動や義援金送り先などを紹介していきます。ぜひご連絡下さい。

「払えば食えぬ！」

区役所で国保料引き下げ交渉

「食えば払えず、払えば食えず」―。長引く不況と貧困化の中で支払い限度を超える保険料負担に切実な声があがりました。七月十四日、港区役所で「国保交渉」が行なわれ、約三十人が参加しました。区内の諸団体から成る港区国保対策連絡会が主催。

事前に同会から提出されていた「要望」（①国保財政への国庫負担を二五パーから五〇パーに戻し、市の繰り入れも大幅に増やして保険料引き下げを②減免制度を拡充して負担軽減を③生活実態を無視した保険料年度内完納の強要をやめよ―等）に対して港区役所（窓口サービス保険年金担当）から「回答」が示されました。

質疑応答では「窓口負担減免制度を活用しようと訪れたが生活保護の窓口へ案内された」（病気失業中で所得が生活保護基準以下の男性）→「生活実態を訊き、一番ふさわしい窓口へ案内している」（区役所）などのやり取りがありました。

◆抜本改善へ市も要望

交渉全体を通じて区の担当者は①国保制度維持のために、市は巨額を繰り入れたり、独自の負担軽減制度を導入したり、国に抜本改善を求めたりしているが、財政基盤が脆弱という構造的な問題がある②滞納世帯に対しては実情の把握と実情に見合った丁寧な対応に努めている③皆さんの声はできるだけ今後の施策に反映させるよう努めたい―と市としての基本的立場を強調し、理解を求めました。

交渉のあと参加者は減免申請などの手続きを行ないましたが、提出された申請書にも、国保料に苦しむ実情が記されていました。

高過ぎる保険料に切実な声が相次いだ「国保交渉」＝7月14日、港区役所5階

〝〝〝〝〝原発を考える〟〟〟〟〟

27日から港戦争展

「身近な歴史を掘り起こし、戦争の真実を次の世代へ」と今年も八月二十七日から「港区私たちと戦争展」が催されます。今回は福島原発事故を受けて「原発」に焦点を当てたのが特徴。全国一の原発密集地である福井県若狭へ実行委員が飛び、そこでの取材に基づく展示が行なわれます。また、嫌がらせを受けながらも「原発安全神話」と闘い続けてきた放射線防護学の権威・安斎育郎さんを講師に招き、「どうやって原発ゼロを実現するか」を学び合います。＜8面に広告＞

「見て覚え体で覚えよ」

厳しくも温かく見守る親方　2年後は独立をと期待

【1面のつづき】

また外の仕事だけに、雨や風、暑さや寒さが応え、特に「冬の雨ふりは最悪」。さらに解体途中の建物や大型機械に囲まれての作業は常に危険と隣り合わせ。そのため強い体力と共に細心の注意、それにユンボ運転手ら同僚と呼吸を合わせることも欠かせません。

◆〝ボーシン〟として

そんな厳しさの中でも、仲間とうまく息が合った時の快感、段取り通り仕事が進んだ時の満足感、皆で力を合わせて一つの現場をやり終えた後の充実感は「何物にも代えられん」と佐久間さん。特に困難な現場をやり終えた後の満足感は格別で、今では「難しい現場ほど燃える」とか。

道建には現在、四人が在籍し、バイトも入りますが、この中で佐久間さんは〝ボーシン〟（「グループのリーダー」を意味する業界用語）として一つの現場を任されるようになったのです。

妻・澄依さん、長男・彪牙君とくつろぐ佐久間さん。「強い体と心を持つ男に」との願いが長男の名に込められている＝八幡屋の自宅で

◆「少数精鋭」に応えて

そんな佐久間さんに親方の道脇太志さん（四〇）は次のように期待を語ってくれました。

「不景気の今、うちのような規模の所はやりくりが大変。一時的に仕事が増えても人は増やせず、少数精鋭で頑張ってもらうしかない。人材が命や。その中で佐久間君はよく頑張ってくれている。五年前からここで働いているが、仕事熱心な上にセンスがよく、覚えが早く、一度言ったら次には出来ていた。一年ちょっとで一つの現場を任せられるようになった。

この仕事で難しいのは、建物の違い、周囲の違いに応じて段取りを変えねばならんこと。例えば周囲に空き地がないマンションなどの場合、外から潰していけないので、まずユンボをレッカーで屋上へ上げ、潰しながら降りていく。これはかなりの危険を伴うが、経験と勘で進めるほかない。また苦情が出ないよう近隣対策には非常に気を遣う。これをしっかりやらんと、あとの建設の人たちがその苦情を引き継ぐことになる。その一方で、解体が終わって更地にした時の快感、満足感は何とも言えない。

そんな業界に自分も十五歳から身を置き、その経験から、従業員には『任せて責任を持たせる』主義でやってきた。佐久間君はそれによく応えてくれた。

今後はとにかく安全第一で、無理せず、背伸びせず、うちの息子ら若手をリードしながら頑張ってほしい。そして二年後には独立して親方になれと言っている」。

◆家庭をエネルギーに

親方のそんな期待の中、佐久間さんは昨年二月に結婚。「高い所から落ちないかと心配です」と夫の安全を何より気にかける同い年の妻・澄依さんの愛情、今年三月に誕生した長男・彪牙君の可愛らしさ、そして一家の主としての責任感をエネルギーに、今は新居のある八幡屋から現場へと通う毎日です。

地域では「自分も楽しかったから」「地域の伝統行事が続いてほしいから」と地元・三津神社の夏祭りの太鼓指導も続ける佐久間さん。その若さと純粋さ、何より現場仕事への誇りと情熱で、世のため地域のため、自分のため家族のためにますます輝き続けてほしい―そう願わずにおれません。

夏祭りの太鼓の指導をする佐久間さん（右下）。生まれ育った土地への愛着が地域活動に心を向けさせる＝夕凪の三津神社で

住まいの防犯レベル高めよう
①ワンドア・ツーロックは常識
②ピッキングに強いカギに交換
③窓にも補助錠の取り付けを
PHS・携帯OK 0120-70-5569
(アーイアート)港カギ防犯センター
安心・安全をご提供します
港区港晴1-4-8
（港晴小学校並び）
☆大阪府錠前技術者防犯協力会会員
☆港防犯協会会員　☆防犯設備士第00-6738号

身近な法律相談おうけします
借金や過払い請求を何とかしたい
相続・遺言の手続きどうしたら？
生活トラブルを法的に解決したい
不動産の名義を変更したいけど…
役所への手続きを代行してほしい
会社設立・役員変更の手続きは？
※その他、成年後見申立て、帰化申請、離婚手続などのご相談も承ります（司法書士法第3条の範囲に限ります）
1人で悩まずお気軽に／秘密厳守／土日も対応／女性司法書士も在籍
牧田 権藤合同法務事務所
南市岡 1-6-3 ユタカビル2F 6586-6762
URL makita-gondou.com
司法書士・行政書士　牧田亮　簡裁訴訟代理等認定番号 812083　司法書士　権藤礼子　簡裁訴訟代理等認定番号 812032

自分史を綴って過ごす良き余生！
お話をききとり、冊子にしてお渡しします。
400字（原稿用紙1枚）で千円が標準料金です。
私の強気な性格を嫌った夫が暴力を繰り返したので、子供が巣立ったのを機に家を出ました。夫は深く反省し、私も欠点を自覚できたので、今はまた一緒に暮らしています。そんな歴史を冊子にしてもらい、余生への戒めとしています。
（港区・70代女性、総料金5万円）
田中3-3-3 飯田編集事務所 ☎6571-4636